

三浦綾子松阪読書会

氷点



人間の罪と苦悩を鮮烈に描いたデビュー作

『氷点』は13年間の病から癒えた綾子が三浦光世と結婚し雑貨店を営みながら初めて書いた小説である。1964年7月「朝日新聞」1000万円懸賞小説に入選し同年12月から1年間「朝日新聞」朝刊に連載、65年に朝日新聞社より出版。その後大ベストセラーとなり繰り返しテレビドラマ化された。戦後の17年間にわたる愛憎劇を通し、人間の原罪の性質とそこから発する自己中心が生み出すさまざまな罪と苦悩、魂の淋しさの悲劇を描き救いの道への起点としての認罪の必要を説いている。

三浦綾子さんの『氷点（上）』をご一緒に楽しく読んでみませんか

Zoom 併用によりオンラインでも参加できます

当日はできれば『氷点』上巻をご持参ください

皆で輪読して語り合いますから事前に読んでおられなくても大丈夫です

参加費 初回無料

ご興味があるお方は下記メールアドレスにメールください

 shumaimai725@gmail.com 三浦綾子松阪読書会

メールQR

コード



日時：2024年 5月25日（土）13時30分～15時
6月22日（土）13時30分～15時

場所：松阪市民活動センター 小会議室3（5月 6月）

カリヨンプラザ3F
定員12名先着順 +zoom

主催 三浦綾子松阪読書会